

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

会派：夢みらい 5名

（夏川嘉一郎、小川喜三郎、安藤博、赤井康彦、矢吹安子）

(2) 実施日：平成 31 年 2 月 19 日（火）

### 【1. 調査の目的】

(1) 視察地

熊本県天草市

(2) 現地における実情

平成 30 年に～長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産～「天草の崎津集落」が世界文化遺産に登録されたので各種情報の把握

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

「天草の崎津集落」の推進事業の実情、今後と取組など

(2) 選定地：熊本県天草市

ユネスコの世界文化遺産に登録されたため

### 【3. 調査結果】

(1) 内容

2月19日（火）

米原駅（新幹線）→博多駅（在来線）→熊本駅（車）→崎津集落

13：30・世界文化遺産登録推進事業について（天草市世界遺産推進室長）

場所：富津地区コミュニティセンター

○事業推進にあたって、熊本県と市の役割分担や連携内容

→推薦書など連携、周知啓発は分担（天草市：天草管内、熊本県：熊本県内）

○各種市民運動概要

→天草地域世界遺産登録推進連絡会議を開催

○国やユネスコ等への戦略的な取組

→平成 28 年に県議会議員・国会議員による「教会群とキリスト教関連遺産」世界遺産登録推進議員連盟発足。国内における推薦要望活動を展開。

→欧州での PR 活動を実施。

（パリ：日本文化会館でユネスコ関係者を招待し講演会、レセプションを実施）

（ローマ：カンチェッレア宮でローマ法王庁関係者を招待し講演会、レセプション実施）

※2月20日（水）に訪れた熊本県玉名市については別紙に記載

## (2) 考察

平成 19 年に文化庁が長崎県に対して隣接する資産について世界遺産登録の検討を指示し、平成 24 年「第 5 回長崎世界遺産学術会議」で「天草の崎津集落」が含まれ、平成 30 年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として天草の崎津集落が世界文化遺産に登録された。崎津集落は、ゴシック様式の教会「崎津協会」を中心とした天草下島の小さな漁村の集落である。

天草市では世界遺産登録に向けて、県と市による推薦書作成の連携、さらに県と市の分担による周知啓発が行われていた。当市も世界遺産登録へ向けて県との連携が進んでいるが、更なる連携強化を期待したいと改めて感じた。

また、天草市では、世界文化遺産登録を受けて、子供向け資料「世界遺産と天草のキリシタン史を学ぼう！」や一般観光客向けの「天草の崎津集落散策マップ」等、紙資料が配布されていた。さらに崎津集落にある 3 宗教（キリスト教、仏教、神道）の合同祭典を実施し世界遺産登録記念の御朱印帳を用意。「天草ぐるっと周遊バス」や、タクシープランなど観光客に対する交通インフラを用意している。今回の視察行程では、熊本駅から崎津集落へは車で 2 時間半かかった。交通の便の良い場所ではないと実感。世界遺産へ国内外からの多くの観光客を誘致するには、交通インフラを中心に言語対応含めて様々な施策が必要であると痛感した。

平成 31 年 3 月 7 日

報告者 矢吹安子（代）

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

会派：夢みらい、個人名：矢吹、小川、安藤、赤井、夏川

(2) 実施日：平成31年2月20日（水）

### 【1. 調査の目的】

(1) 六次産業推進策の実態調査

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目：六次産業推進の取組み

(2) 選定地：熊本県玉名市（人口：66,627名、面積：15,255㎢）  
H17.10.31市3町合併

### 【3. 調査結果】

(1) 内容

①玉名市 六次産業化農産物の概要

（イチゴ、トマト、ミニトマト、温州みかん、有明海苔等）

②農業を取り巻く現状

大規模化の傾向有り、市は特に中小農（個人）重点支援、システム化。

③玉名市の六次産業化支援の概要

■国・県

〔総合化計画、六次産業化〕

ネットワーク交付金

大規模農家

■玉名市

〔玉名独自支援〕

中小農家（個人）

■情報発信（PR）

販売促進

玉名六次産業推奨品PR

■補助金（交付金）

玉名六次産業推進補助金

■アドバイザー体制

サポートセンター、技術センター

各種情報交換の場の提供

市補助の制度化

④玉名市六次産業推進各種アドバイザー体制

■六次産業活性化委員会

対象：（9名）大学教授、JA、商工業者、農業者、産業経済部長

内容：玉名市六次産業確立に向けた舵取りの組織。

（各種活性化策や補助金申請に関する審査等）

■六次産業個別相談会

対象：市内在住、六次産業に取り組む者

講師：各種コーディネーター、経営コンサルタント

内容：六次産業に取り組むにあたっての課題、悩み等の相談（現地指導も可）

■六次産業勉強会

対象：市内在住、第一次産業者（農林漁業者）

講師：コーディネーター、経営コンサルタント

内容：六次産業を進めるための知識を得る場の提供

■六次産業推進交流会

対象：市内外の各産業従事者

内容：市内農林水産物を活用し、新たな地域産業を育成するため、各産業者との交流、情報交換、研究の場づくり

■六次産業推進補助金

対象：市内第一次産業者

一般財源：H26～28（10,000千円/年）

H30（6,000千円/年）

補助金：1事業者あたり、500万円以内で3年間の支援

対象経費：①研究開発費（試作、研究に係わる経費）

②販路開拓費（広告宣伝、展示会、出品費用等）

(2) 考察

現在、多くの地方自治体が第一次産業（農林水産業）活性化の一環として、六次産業化に取り組んでいるが、全て順調に進んでいる訳ではなく、この六次産業化と云う事業の最大課題は、原材料生産以外、加工や販売に不慣れな第一次産業者が攻防激しいマーケットの第一線で通用する加工技術や経営能力をどこまで身につけるかにある。事業推進の主体はあくまで、産業者自身に有る事は云うまでもないが、この種事業の成功キーワードは行政のサポート力、即ち「後押し体制の如何」にかかっていると云っても過言ではないのではなかろうか。

この点玉名市の熊本県よろず支援拠点、コーディネーターや経営コンサルタント派遣を含む各種システム化されたアドバイザー体制づくりを始めとする各種勉強会や交流会の場づくりは事業者の主体性を尊重しながらも「うまく後押し」という理念に添ったものであると考える。以上のことから、これら一連の玉名市六次産業化政策は本市にとっても見習うべき点大いに有りと考えるものである。